

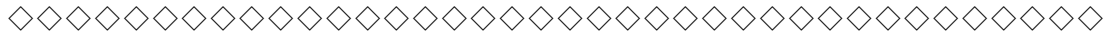


<東部療育センター メールマガジン 2008年10月号>

障害児（者）の方への情報提供を行い、生活支援を目指します。

発行 東京都立東部療育センター

<http://www.tobu-ryoiku.jp/>



2008年10月号のメールマガジンを配信します。10月も半ばを過ぎ、めっきり秋めいてまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

今回は AAC とされる、代替コミュニケーションの情報及び過ぎ去った夏の思い出ということで、東部療育センターで実施された花火大会の情報をお届けします。



<AAC って何？ コミュニケーションの幅を広げよう>

言語聴覚士から

1. AAC とは

Augmentative & Alternative Communication の頭文字をとったもので、日本では「拡大・代替コミュニケーション」や「補助・代替コミュニケーション」と訳されることが多いようです。これは、話す・書くという一般的な方法でコミュニケーションできない場合に意思疎通を図るための方法のことです。肢体不自由・知的障害・視覚障害・聴覚障害・音声障害・失語症・自閉症など、コミュニケーション行動になんらかの困難を抱える全ての方が対象で、障害の種類や重症度は問いません。

今回は AAC の具体的な紹介とともに、より良く AAC を活用するためのヒントをお伝えしたいと思います。

1) ローテク（非電子）AAC

AAC というと、何やら特別な機器を使うものというイメージをもたれている方もいらっしゃると思います。しかし、次のような方法も AAC に含まれます。

・文字盤

話すことも自分で書くことも難しいけれど、文字を理解しているという方とのコミュニケーションで一番確実なのは文字盤です。あらかじめ 50 音の文字が書かれたものを

用意しておき、本人に文字を指さしてもらうことで単語や文章での表現が可能です。

また、文字はわかるけれど自分で指さすことが難しい場合、こちらが文字を順番にさしていき、該当する文字のところで本人に合図を出してもらえれば、文字を確定することができます。

・シンボルの活用

文字の使用は大変だけれども、写真や絵なら理解しやすいという方は、それらをカードにしたりノートに貼って、必要なときに示すなどの使い方ができます。また、文字や写真・絵の変わりに使うことが可能な、様々なシンボルも開発されています。シンボルは、それぞれの事物の特徴をデフォルメして描いたものが多く、内容をイメージしやすいという特徴があります。交通標識や非常口の案内版なども、シンボルの1つですね。

米国では 20 以上のシンボルが開発されているそうですが、最も広く利用されているのは、PCS (Picture Communication Symbols) というものです。日本語化もされています。PCS はシンボルの種類が豊富なこと (3000 以上)、実物に近くわかりやすい線画が多いこと、そしてパソコン上で利用できることなどが、受け入れが良い理由と思われます。

※PCS に関する書籍の紹介⇒ http://kokoro-rb.jp/books/pcs_g.html

・サイン言語

話しことばの代替手段として使われるサイン言語も、AAC の1つです。私たち身近なものとして手話がありますし、イギリスで生まれたマカトンサインも特別支援学校などを中心に普及しています。

※マカトンサインについて⇒ <http://homepage2.nifty.com/makaton-japan/>

2. ハイテクを利用した AAC

1) VOCA (ヴォカ)

Voice Output Communication Aids の頭文字をとったもので、音声出力機能を備えたコミュニケーション機器の総称です。各メーカーから様々な商品がだされています。東部療育センターのリハビリテーション科でも、多種類の VOCA を用意してあり、色々な場面で利用者様に活用していただいています。

・録音方式

リハ科の活動の中で一番出番が多いのは、このタイプです (パシフィックサプライ社の「ビクマック」など)。あらかじめ他の人 (職員など) がメッセージを録音しておき、必要な場面で本人がスイッチやキーを押してメッセージを再生する方式です。

リハビリ科では、このタイプの VOCA を使って、グループ活動で始まりのことばを言う係活動をしてもらったり、近況報告をしてもらったりします。

録音できるメッセージの数や録音可能時間は、機種によって様々です。また外部スイ

ッチを接続して使うことができるので、本人が使いやすいスイッチを選ぶことができます。しかし、本人以外の他者の力を借りて録音しなければ活用できない、という短所もあります。

スイッチやキーに内容を表す絵やシンボル（先に述べた PCS など）を貼っておくとメッセージの選択に便利で、文字の理解が難しい方でも楽に使えます（例：飲み物のシンボルが貼ってあるボタンを押すと「何か飲みたいな」というメッセージが再生されるなど）

・音声合成方式

キーボードで一文字ずつ選択してメッセージを構成していき、作成したメッセージを合成音声で発声させるタイプです。日本では、ナムコ社から市販されている「トーキングエイド」という商品が広く知られています。

このタイプは録音方式と違い、メッセージを自由に作ることができるという利点があります。しかしローテクの文字盤同様、使用する方が文字を理解していることが前提となります。

文字の選択をスキャン方式（自動的に文字が点灯させ該当文字になったら決定スイッチを押す）にしたり、キーボードを押しやすいように工夫する（誤操作防止にキーガードをつける等）など、文字入力に関する問題については様々な対策が可能です。

2) コンピューターを使ったコミュニケーション

家に居ながらにして遠くの友達にメッセージを送れるメールや、コンサートの情報を集め予約までできるインターネットは、障害を持つ方々にとっても大変便利なものです。文章作成機能（ワープロ）、通信機能、音声出力ソフトウェアを兼ね備えたパソコンは、とても有能なコミュニケーション機器といえます。

最近では障害のある方でもパソコンを活用できるように様々なソフトウェアや周辺機器が開発されています。また、パソコン使用時の具体的な問題への対処法も色々と研究されています。下記のHPに詳しく載っていますので、参考になさってください。

※「こころ Web」 <http://www.kokoroweb.org/>

3. ACC を活用するためのヒント

今までお伝えしてきたように、よりよいコミュニケーションを図れるよう様々な AAC が考えられています。では AAC を活用するために、大切なことは何でしょうか？

一番大切なのは、ご本人の「コミュニケーションしたい」と思う気持ちです。欧米では、健常であろうと障害であろうと、小さい時から「自己決定をして、相手に自分の意思を伝える」という練習を積んでいます。しかし日本では欧米に比べて、自分の気持ちを主張するのは格好悪いとする傾向があります。また障害をもつ人に自分で決めさせるなんて「無理」あるいは「かわいそう」という考えも根強くあります。

しかし自分で選びたい、自分の希望を伝えたいという意欲があつてこそ、色々なアイ



今回のメールマガジンはいかがでしたか？AAC の情報を活用していただき、色々な形でのコミュニケーションを楽しんで下さい。次回のメールマガジンは12月に配信予定です。



-
- ◆ このメールは msw_trc@mtrc.jp のアドレスより配信しております。
 - ◆ 送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。
-

東部療育センターメールマガジン

発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>

問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/inquiry.html>

〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

- 配信がご不要の方は、下記URLにアクセスして下さい。

<https://www.tobu-ryoiku.jp/info/mailmagazine.html>

Copyright (C) 東部療育センター All Rights Reserved.